



131号

2008/3/1

日中文化交流市民サークル「わんりい」
東京都町田市能ヶ谷町1521-58 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/>
Eメール: wanli@jcom.home.ne.jp



お寺の前でひなたぼっこ

2004年8月 四川省甘孜チベット自治州理塘県曲登にて

撮影：鈴木晋作

「わんりい」131号の主な目次

北京雑感その(22)「北京人のお行儀Ⅱ」	2
私の調べた四字熟語(20)「傍若無人」	3
ものしりノート(5)「旧正月(春節)」について	4
四姑娘山写真だより(8)「犀牛海子の思い出」	6
中国を読む(49)「歴史とは何か」	7
媛媛讲故事(1)「盤古開天」	8
スリランカ紹介(16)「バス旅行—第4話」	9
私の四川省一人旅(14)	10
もう一つの韓国・耽羅国を歩く(済州島②)	12
松本杏花さんの俳句集・「余情残心」より	13
大連だより・日本語教師雑記(4)	14
中国で出会った少女	15
アフリカ(23)「大統領選挙後の暴動について思う」	16
【活動報告】「わんりい」新年会	17
「わんりい」掲示	18

♪♪「中国語で歌おう!会」・3月の歌 ♪♪

māma de wěn

「妈妈的吻」(お母さんのキス)

*中国語歌詞を3Pに掲載しました。

於：まちだ中央公民館 7F・第一音楽室

JR 横浜線町田駅八王子寄り改札口徒歩2分、
小田急線南口徒歩5分町田東急裏109 ファッションビル 7F

3月14日(金) 19:00~20:30

指導：趙鳳英 (中国人歌手)

ご参加の方は録音機をお持ち下さい

●「中国で歌おう!会」於：まちだ中央公民館
毎月1回、主として第3金曜日開催(変更あります)
19:00~20:30 会費(月1回):1,500円

*体験無料

*初めてご参加の方は、会場、日時など「わんりい」事務局
へお問合せ下さい。



 街角で

最近の北京では、犬を散歩させている人を多く見かけます。犬の大きさによって払う税金の額が違うそうで、また室内で飼う関係から、小型犬が殆どです。以前は犬を散歩させること自体がステイタスシンボルでしたが、小型犬は一般化したので、最近は時々、大型犬を散歩させてそのステイタスを誇示するお金持ちを見かけるようになりました。

犬の大小に拘らず、連れ歩いている人達は手ぶらです。日本のように、“犬の落とし物始末用具”を用意していません。それでも不思議なことに、犬の落とし物があまり目に付かないし、不快な思いをすることもありませんでした。

ところがある日、朝早く出かけたところ、道端に犬の落とし物がいっぱい余程気をつけて歩かないと踏んでしまいそうで大変でした。驚きましたが、すぐ思い当たることがありました。普段出かける時は、市の清掃員が朝早く、前夜からの諸々のゴミを掃除してくれた後なので、街の汚れに気付かずにいられたのです。北京には、自転車でゴミ収集箱を引きながら巡回してゴミを拾い集めている清掃員が大勢います。この人達のお陰で、北京の街は清潔に保たれているのですが、反面、敢えて言えば、この清掃員がいるせいで、北京の人々は気安く街を汚すのだと思い当りました。

随分前に、胡同の一角に住むご老人のお宅にお邪魔したことがあります。その床はたたきになった地面そのまま、食事の時は、魚や鶏の骨、枝豆の鞘など食べ滓をテーブルの下に落とします。食事が終われば、すぐにお手伝いさんが床を掃き清めますが、初めての時は違和感を覚えました。また、友人の家も以前は床がコンクリートで、同じようにしていました。しかし、4,5年前に室内を板張りやタイル張りにすることがブームとなり、今では、殆どの家が改造をして、食事で食べ滓を床に落とすことはなくなったようです。

今、レストランで食べ滓を床に落とす人は少ないですが、テーブルに直に置くのは普通のことです。ごく高級なレストランは別にして、テーブルにビニールのカバーをしているお店が多いのですが、そのビニールは極々薄いものが何枚も重ねられていて、お客さんが帰ると、食器を片付けて、テーブルは拭かないで、薄いビニールを一枚剥がします。それでテーブルはすっかり新しくなって、次のお客を迎えることが出来るわけです。

ウェイトレスの労力は省けるし、お客さんには清潔なテーブルを用意できるので多用されています。テーブルに食べ滓を直に置く習慣から、こんな方法が考案された

のようですが、明らかに資源の無駄遣いです。

この様なレストランでは、さすがに床に食べ滓を落とす人はごく稀です(皆無ではありません)が、朝食を食べさせる小さなお店では、この食べ滓を床に落とす習慣がまだ残っていて、凄まじい光景が見られます。

大抵のお店は、^{かまど}竈を店の外に出して包子を蒸し、^{モウディアオ}油条を揚げて、各種お粥、豆腐腦(豆腐を、薄いしょうゆ味できのこなどが入った葛餡たっぷりの中で暖めたもの)、茶卵等も用意しています。

人々は入り口で好きなものを注文して、自分で空いたテーブルまで運んで食べるのですが、その店内は、足元に割り箸の袋や卵の殻が散乱しています。後から来た人々は、床に散らかったものの上を平気で歩きます。店の人は、食器が足りなくなるとテーブルを片付けに来ません。食べ物を持った人は空いた食器を脇にどけて、汚れたテーブルは備え付けのトイレットペーパーで拭いて、その紙を床に落としますから、益々汚れます。

朝早くから開いていて、勤め人は出勤前に、老人たちは朝の運動の後でと、人々が便利に利用しています。味もなかなかのものですが、神経の細やかな人には勧められません。

又ある時、蓮の花を見に蓮花池公園へ朝早く出かけたら、もよりの六里橋バス停付近で大量のゴミを目にしました。

その量が桁外れだったので、後で北京人の友達に聞くと、「六里橋是北京西駅に近いので、汽車に乗り降りする人が野宿したのだろう。」とのことでした。そう言えば、ここを走る路線は多くて、どの路線にも朝早いのに人が大勢待っていました。つまり、前夜遅く北京西駅に到着した人達がここで夜を明かし、朝一番のバスで北京郊外へ出かけたと言うことのようにです。

一晩大勢の人がここに留まっていたのなら、あの凄まじいゴミの量にも納得がいきます。言うまでも無いことですが、花を見た帰りには、ゴミは無くなっていました。

北京では、ゴミのポイ捨ては日常茶飯事のようにです。北京の人達はゴミを捨てても、清掃員が片付けてくれるので、その行為を問題だとは思わないのでしょうか。日本でもゴミのポイ捨てが問題視された時期がありましたが、日本には公的な清掃がないので、自分達で気をつけるようになり、ゴミを捨てない習慣が身に付いたと思います。

北京でも、清掃員がいなくなれば、ゴミをむやみに捨てなくなるのではないのでしょうか？ 時間はかかるでしょうが。

傍若無人 (ぼつじゃくぶじん)

私が調べた四字熟語 20

三澤 統

「傍若無人」という言葉があります。皆さんも聞いたことがあるかと思えます。

この「傍若無人」を分解してみますと、“傍”は傍ら・そば、“若”は～の如し、“無人”は人が居ないということで、“傍らに誰も人が居ないようだ”ということになります。

「あいつの態度は人を人と思わないところがあるね。傍若無人にもほどつてもんがあるだろ。見てると腹が立って来るね。」などと言うのを聞くことがあります。また電車の中などで、酔っ払い同士が周囲を省みず、大声で話したり、笑ったり、喚いたり、はた迷惑の限りですね。正に傍若無人の振る舞いです。

では、辞書を見てみましょう。

三省堂現代国語では、「傍若無人 人にかまわず、勝手気ままに行動するようす」と載っています。

小学館 中日辞典では、「**傍若無人** 1.そばに人がいないかのように勝手気ままにふるまうこと。眼中に人なし。 2. あたかもだれも見えていないような自然な態度の形容。」と説明されています。但し2の用法は日本ではあまり使われていないように思います。

この成語の由来は「史記・刺客列伝」¹⁾の次の部分です。

“高漸離击筑，荆轲和而歌于市中，相乐也，已而相泣，旁若无人者”²⁾が筑を打ち鳴らし、荆轲が市中で唱和して、互いに楽しみ、且つ互いに泣くという、まるで傍に誰も人がいない様な振る舞いであった)

中国は戦国時代(紀元前403年～221年)、衛の国の荆轲(?～紀元前227年)は剣術と読書を好み、諸国を巡り歩いておりました。ある時、燕の国で筑(一種の古代楽器)の名手である高漸離と知り合いになり、打ち解けた関係になりました。

二人は毎晩のように街へ出ては酒を飲み、酒を飲んで人目もはばからず大声で歌を歌いまくるといったありさまでした。ある時も二人はまた街に行き、酒を飲むと、酒の勢いに乗じて賑やかな通りの真ん中で、高漸離が筑を打ち鳴らすと荆轲は筑の演奏について大声で歌い始めました。騒ぎで見物人が集まり山のような人だかりになり、人々は彼らを指差してあざけり笑いましたが、二人はまったく意に介さず、筑を打ち続け、歌

を歌い続けました。打って、歌って感極まると、二人は大声で泣き出し、涙をぼろぼろ流しました。その傍若無人の様は、まるでこの世界には彼等二人だけしか存在していないようだったということです。

注)

史記・刺客列伝

刺客列伝(せっかくれつでん、しきゃくれつでん、せきかくれつでん、しかくれつでん)は、史記の列伝の一つで、為政者を暴力で脅し、または殺そうとした5人、曹沫、専諸、豫讓、聶政、荆軻の伝記を含む。

高漸離(こうぜんり)

中国、戦国時代の人。音楽をよくし、楽器の筑を撃つのが巧みであった。荆軻の友。荆軻が始皇帝の暗殺に失敗した後、荆軻の志を継いで始皇帝を討とうと捕らえられたが、始皇帝は、高漸離の音楽の才を惜しんでその眼をつぶし、側近におき、筑を撃たせて賞美した。しかし、盲目となった後も暗殺の機会を求め果たそうとして殺された。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

妈妈的吻

在那遥远的小山村，小呀 小山村，

我那亲爱的妈妈，已白发鬓鬓，

过去的时光，难忘怀 难忘怀，

妈妈曾给我多少吻，多少吻，

吻干我脸上的泪花，

温暖我那幼小的心，

妈妈的吻甜蜜的吻，

叫我思念到如今。

遥望家乡的小山村，小呀 小山村，

我那可爱的小燕子，可回了家门，

女儿有个小心愿，小心愿，

在还妈妈一个吻一个吻，

吻干她那思儿的泪珠，

安抚她那孤独的心，

女儿的吻纯洁的吻，

愿妈妈的欢欣，

女儿的吻纯洁的吻，

愿妈妈的欢欣。

もの知りノート(5)

「旧正月(春節)について」

岡村景孝

今年の旧正月(中国では春節という)は2月7日です。中国や韓国ではこの旧暦での正月を大切にしています。日頃遠方に住んでいる家族も故郷に帰り一家団らんを楽しむ大切な日になっています。

日本は今では都会も農村も新暦で正月を祝いますが、昭和30年代までは農村ではこの旧正月を大切に、この旧正月に合わせていろいろな祝いの行事が行われました。

この旧暦の正月は遅いときには2月中旬、早い年には1月下旬と約1ヶ月の幅の範囲内で毎年変動します。なぜなのでしょう?これは暦の来歴から説き起こす必要があります。

以下調べた範囲で述べてみましょう。

1. 暦の種類

暦の種類は大きく分けて三種類あります。

一つは現在欧米や我が国、また政治経済面上ではどの国でも用いられている太陽暦です。

二つ目はイスラム諸国などで用いられている太陰暦です。

三つ目が日本では旧暦と呼ばれ、中国では農曆と呼ばれている太陰太陽暦です。

1-1 太陽暦

地球の季節や気候変動は太陽によって最も大きな影響を受けています。太陽の周りを地球が自転する周期を基準に(換言すると太陽の動きを元に)作られているのが太陽暦(グレゴリオ暦とも)¹⁾です。

一年の周期は正確には365.2422日です。これを12で割ると5日ほど余りが出ます。一年に何度か31日の月をおかなくてはなりません。また365の余りの端数は四年に一度閏日を置くことにより解決する方法が採られました。

明治政府は明治五年に太陽暦に切り替えましたが、当初は閏日を考慮に入れませんでした。閏日を取り入れたのは明治32年(1899)になってからでした。今の暦は日本ではまだ100年少々の歴史しかありません。

1-2 太陰暦

「太陰」とは太陽の対になる言葉で「月」のことです。即ち、月の運行を基準に暦を定めたものです。月の満ち欠けの周期は29.5日で、これを12倍すると354日です。太陽の周期と比較すると年間約11日少なくなってしまいます。

これをそのまま続けて行き16年もすると冬と夏が逆転するということになります。しかし、イスラム圏では季節変動が少ないため現在でも太陰暦が用いられています。また、太陰暦では常に月の初めは新月で15日は満月です。

1-3 太陰太陽暦

太陰暦を基準に季節変動を考慮して違和感をなくすよう調整した暦が太陰太陽暦(中国では農曆と呼ばれる)で、19年毎に7回(2、3年に一度)を閏年として閏月^{うるふ}^{うるふ}²⁾を入れ解決を図



中国北京地壇公園の春節

るものです。日本でも明治以前に用いられ、現在でも旧暦の暦として使用されています。また中国、香港、マカオ、韓国、台湾、モンゴル、ベトナムなど各国でも使用されています。

日本で最近まで農村では新正月よりも重きを置かれてきたこの旧暦の正月(旧正月)は、中国では春節と呼ばれ一週間ほど休日になります。故郷を離れていた人たちが、家族と年に一度一堂に会することを願って列車やバスで帰省する帰郷ラッシュは壮観です。韓国、台湾など各国でも同様です。

また、太陰太陽暦の8月15日は中秋の名月で、中国では月餅を食べて家族が団らんし、一方家族と遠く離れて生活している人々は中秋の名月に故郷の家族や友人を想うのです。

太陰暦は太陽暦に対して年間で11日少ないわけですから、新年は毎年11日早くなります。去年は2月18日だったのが今年は11日早くなって2月7日が春節になります。しかし、太陰太陽暦では閏年を設けますから閏年では13か月になり、その分だけ先送りになるわけです。

毎年11日ほど早く春節になり、閏年の翌年は約一ヶ月遅れるのはこのパターンを繰り返すからです。

●参考 春節(旧正月)の日付

2006年1月29日	2010年2月14日	2014年1月31日
2007年2月18日	2011年2月03日	2015年2月19日
2008年2月07日	2012年1月23日	2016年2月08日
2009年1月26日	2013年2月10日	2017年1月28日

2. 中国における政治と暦の関係

日本でも使用されてきたこの旧暦はもちろん中国から輸入されたものを基本にしています。中国において暦は政治的な意味合いを除いて語ることはできません。

中国歴代の皇帝は「天子」とよばれ、すべてを超越した存在である「天帝」からこの世の支配を委託された存在です。従って皇帝は、季節変動や天変地異などを含めたこの世の全てに精通してはなりません。暦の制定も皇帝の重要な役割の一つとして、暦をより正確にするためいずれの皇帝も天体観測や気象観測などに熱心に取り組みました。

皇帝は諸国の王を任命し、諸国の王は皇帝に従う証として皇帝が定めた時間を受け入れる、すなわち皇帝が発行する暦を拝領するということが行われました。

日本にも中国の暦がもたらされましたが、後に日本でも独自の暦が作られました。宣明暦は800年間(862～1683)



北京建国門にある清時代の古観象台（観測所）の観測機器

用いられました。現在旧暦として使われているのは天保暦（1844～）を基本にしています。

3. その他の関連事項

3-1 週について

暦の単位は年、月、週の概ね三種類です。

七曜（日曜、月曜、火曜、水曜、木曜、金曜、土曜）は日本では平安時代の旧暦の時代から存在しており、明治時代新暦に変更したときにも新旧の暦の曜日は一致していました。但し旧暦での曜日は古くは古いに使われる程度の役割しか果たしていませんでした。

七曜（週）の概念は古く、その発祥はバビロニアだといわれています。日本にはインドから中国を経由し伝えられたもののようです。中国でも太陽と月以外に火星、水星、木星、金星、土星は他の星とは異なる動きをするということで、観測の重要な対象とされていました。日本の曜日の呼称は中国から伝わりましたが、中国では現在、月曜日から始まって星期一、二、三と呼称され日曜日は星期天といえます。

六日働いて一日休む習慣は「神は六日かけて世界を作り七日目に休んだ」というユダヤの神話とともに世界中に広がりました。但し、日本の旧暦時代は先に述べたように古いに使われる程度で実用的なものとなりませんでした。

話は飛びますが、鎖国制度の江戸末期、中の浜万次郎（ジョン万次郎）³⁾ が海で遭難し、アメリカ船に救助され、アメリカの生活様式を経験する中で最初に最も驚いた事は、七日に一度誰も働かない日曜日があるということだったそうです。

当時、日本には曜日の概念がなく正月とお盆以外に休日はありませんでした。農耕民族と狩猟民族の違いをそこに見るのは「うがち」すぎでしょうか？

農耕民族は稲などの農作物の手入れに毎日の労働が欠かせなかったでしょうし、狩猟民族は毎日狩りをして獲物を根絶やしにするのを恐れたのではないかと私は思っています。

3-2 六曜について

今のカレンダーにも「先勝」「友引」「先負」「仏滅」「大安」「赤口」の六曜が書き添えられていることがあります。縁起の良い日、悪い日の判断材料や結婚式、葬式や建物の起工式など日程を決める際の重要な要因として、昔からの習慣であると思われる方も多いと思いますが、実は日本でのこの歴史は浅いのです。

明治政府が新暦を採用するようになって暦を発行していた業者が俄かに採り入れました。新暦になり迷信的な暦⁴⁾が廃止されたため、暦業者達はなんとか付加価値をつけようとして、いままで忘れられていた六曜に目をつけ、新暦のカレンダーに今まで見たこともない六曜を入れ始めました。仏滅や大安は、明治になって急に始まった習慣にすぎません。もちろん科学的根拠もありません。

六曜は中国宋代に作られ、以来誰も使わず、明治に至るまで忘れられていたのを暦業者が取り上げました。六曜はあまりに無名だったので新政府の規制の対象になりませんでした。

3-3 月の地球に及ぼす影響

月の直径は地球の1/3.7、惑星と衛星との関係ではその比率は太陽系の中では最も大きいといわれています。月の誕生については諸説ありますが地球に火星ほどの大きな天体が衝突しその反動で飛び出したとする説が現在最も有力です。

かつて月は現在よりも地球の近くにあり、より強力な重力と潮汐（潮の干満）力を及ぼしており、また地球はより早く回転していたと考えられています⁵⁾。

その強い潮汐作用は生命の誕生や進化に影響を与えたのではないかと考えられています。海に誕生した生命は意図的に陸に上がったわけではなく大きな潮汐作用によって陸地に取り残されたところから進化が始まったという説です。

また、月は地球の地軸の傾きを安定させているとも考えられ、もし月がなかった場合、或いは現状の月よりもかなり小さかった場合、地球の地軸の傾きは現在と比較して大きく変わり、それに伴って激しい気候変動が発生し生物は現在のように発達できなかったであろうと指摘されています。

● 注釈

- 1) **グレゴリオ暦** 16世紀当時用いられていたユリウス暦が季節とのずれが顕著になってきたためローマ教皇グレゴリウス13世がユリウス暦を改良して1582年制定した暦。四年に一回閏日があるが、400年に3回ほど閏日を置かず平年に戻すこととした。
- 2) **閏月** 閏月は6月または7月に置かれることが多く、閏月の有る年は一年が13か月になる。
- 3) **中の浜万次郎**（1827～1898）高知県土佐清水市中の浜の生まれ、14歳の時漁に出たあと遭難し、アメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号に救われる。アメリカに十年間滞在し、英語、数学、測量、航海術、造船技術などを学び帰国、江戸末期から明治にかけて通訳、講師として活躍した。
- 4) **迷信的な暦** 毎日の吉凶や方角の善し悪しなどが詳細に書き込まれており、人々はこの暦によって生活の行動に制約を受けていました。
- 5) 現在干満の差を1mとすると当初はその千倍すなわち1000mの干満の差があったといわれています。また、現在月は毎年3.8cm地球から離れていっていると計測されています

（参考文献）

- フリー百科事典「ウィキペディア (Wikipedia)」
大連雑学辞典

2005年から2007年に掛けて毎年夏に'わんりい'の方々が犀牛海子(湖)4400mを訪れています。

あいにく何れも雲が多くて犀牛海子から主峰が見えませんでした。晴れていれば此処にご紹介するような風

景が見えます。

私は美しい青いケシを探して1991年8月に初めて四姑娘山を訪れ海子溝に入りました。その時に主峰の優美な姿に魅せられ、その後主峰をより美しく撮影できる場所や主峰を映す湖を探して海子溝を遡る事になります。

そして3年後に辿りついたのが犀牛海子でした。犀牛海子は主峰の東南東側に位置して、日隆や大姑娘山方面からは見えない主峰の北東壁を見せてくれる場所で、4300mと4400mに上下2つの湖があります。

(写真1)は犀牛海子から撮影した朝焼けの主峰の北東壁です。このような神々しい景色を見ますと拝みたくになりますが、実際この主峰は古来から土地の守り神の一つとして信仰されています。また「犀牛」はこの地方では天上に住むヤクに当てられていて、犀牛海子の名前は天上からヤクが降り立った伝説から名付けられています。

実際、主峰を映した湖周辺でヤクが草を食んだり水浴びしている風景を見ると、その名前に納得させられます。犀牛海子周辺は主峰を美しく見せるだけでなく、夏に多くの高山植物を見せてくれる場所でもあります。此処には緩斜面の草地から急峻な岩場まで様々な地形があり、そこに春から秋に掛けて色々な花が咲きます。

当時は放牧する人も含めて訪れる人が少なくヤクの数も少なくて(更に降水量が多かったせい)殆ど手付かずの



写真1 犀牛海子から撮影した朝焼けの主峰の北東壁。



写真2 犀牛海子に映る主峰の写真



写真3 桜草の花(Primula graminifolia)

高山植物の群落が広がり、今では姿を消した大きな雪蓮や青いケシの株を彼方此方で見掛けました。

多くの種類の桜草の花(Primula graminifolia) (写真3)も沢山咲いていました。

しかし当時私は勤め先の有給休暇を利用して日本から出掛けていたため滞在時期と期間が限られ、撮影に適した天候に出会えるのは稀で主峰や高山植物の良い写真を中々撮れませんでした。

何度も犀牛海子へ通いましたが結局納得が行く写真を撮れるようになったのは当地へ移り住んだ2000年以降でした。犀牛海子に映る主峰の写真(写真2)はその頃に撮影したものです。犀牛海子の上側にはパンダで有名な臥龍と都江堰へ通じる峠が在り、その峠を通るヤクや薬草採り等が湖の傍を時折通ります。

ここに写っているヤクの群れも犀牛海子で一休みした後、この峠を越えて行きました。

- すでに掲載された「写真便り」はこちらにあります
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/ookawasan/essay-title.html>
- 大川さんのホームページはこちら
<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>
<http://kawamoto1940.web.fc2.com/>
<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvally.htm>

中国を読む(49)

「歴史とはなにか」 岡田英弘著

(文春新書)



10年前に付けていた日記を整理した。読み返してみたら面白かったので、日記に登場する、今も付き合いのある友人M子に見せてみる。あるクラスメイトの恋愛話のくだりで、実はクラスメイトが好きだった男の子が、M子本人を好きだった、という新事実が判明(!)。M子自身のくだりでも、「いや〜、これはちょっと違うんだな」という私の勘違いも。それはそのはずで、日記に書かれたものは、私の目から見た事実で、かなり偏見に満ち溢れている。日記ってそんなものだ。

史書と日記を同じ土俵で考えたら怒られそうだが、実は歴史のゆがみもこれに似ている。私たちが歴史と信じているものは真実でもなんでもなく、過去に誰かによって書かれた記録にしか過ぎない。書いた人間の偏見に満ち溢れたもの、もっと上品に言い換えれば、書いた時代の価値観や書いた人間の立場によってゆがめられた記録、それを私たちは歴史と信じている。

著書によれば、司馬遷の書いた「史記」は「武帝こそ正統の天子」と言うために書かれた。だから、わざわざ神話上の君主までさかのぼり、そこから繋がっている「正統な」武帝までを記している。中国の歴史文化を作り出した「史記」の根幹にある「正統」という発想、これが中華思想を生み、現在の中国人の価値観にも影響を与えている。

日本は日本で、中国文明の影響下にありつつも、日本は中国とは違うのだ、ということをお願いして「日本書紀」を書いた。「皇帝」と同義の「天皇」という称号をあえて名乗ることで、日本は中国からの独立を宣言。「日本書紀」は「日本は独立した国であり、それをまとめる天皇は正統である」ということを言うために、やはり、わざわざ神話までさかのぼる。「日本書紀」は鏡に映った「史記」のようである。

こうして歴史は長い間をかけてさらにゆがめられていく。ゆがめられた歴史同士は、当然 隣国同士で齟齬を生む。そこで必要なのが「完全に公平な」歴史だと著者は指摘する。しかし、清廉潔白な歴史は、それぞれの国家の立場を無視することになり、結局、そのようなものは誰も歓迎しない、とも。国家の利益になる史料に固執し、自国に理があると主張しあっている間は歴史問題はくすぶり続ける。さりとて、国家の利益のために動いている外交。もっと広い視野を持って、お互い歩み寄るまでには、まだまだまだまだまだ…(永遠に続く?)。 (真中智子)

- バックナンバーはこちら
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/library2/lb-title2.html>

大昔、天と地が分かれていなかったとき、宇宙はドロドロと濁って、暗くて、まるで大きな卵そのものだったそうです。

そんな宇宙で、盤古という男がひっそりと生まれ、成長していました。百年、千年と、あっという間に一万八千年が経ちました。

ある日、盤古は目を覚ましました。周りは、真っ暗で、何も見えない上、身動きもできないので、焦り、怒りました。我慢できず盤古があたりを手で探りますと、思いがけなく大きな斧がありました。

盤古はその斧を手に取り、全身の力をこめて暗闇に向け一気に振り下ろしますと、山が崩れ大地が裂けるような大音響が「どかん」と響き、その混沌としていた卵が切り裂かれました。そして卵の中の軽くて、清らかなものは上昇して天となり、重くて濁ったものは下に沈み、大地となりました。

天と地が分かれて以来、盤古は再び閉じないかと心配し、頭で天を支え、足で地を踏み締め、腰をまっ

すぐに伸ばして天と地の間に立ちました。

すると毎日のように、天は一丈高くなり、地は一丈厚みを増し、盤古の体も高く大きくなっていきました。このようにして、また一万八千年が経ち、天は非常に高くなり、地はとても厚くなり、盤古も巨人になって、柱のように天と地の間に立って天を支えていました。天と地は、盤古によってしっかり固定されましたが、盤古は疲れ切って、とうとう倒れ死んでしまいました。

盤古が死ぬと、呼気が雲や風に、左目は太陽に、右目は月に、毛髪は草木に、血は海に、汗は雨に、体は山々になったといわれています。

盤古は中華民族の天地開闢の始祖として、後世の人々に語り継がれています。今、中国には盤古山と呼ばれる山が二座あり、一つは、広州の花県にあり、盤古神壇が建てられています。もう一つは、河南省の桐柏県にあります。山頂には盤古廟が建立され、毎年旧暦の三月三日に、人々は必ず山へ行って、盤古を祭るといわれています。



何媛媛さんのお名前は‘わんりい’の読者の皆さんには馴染みがあるかと思います。何年かにわたって‘わんりい’に寄稿下さった「媛媛来信」で、中国の生活や行事や風習などを紹介くださり、中国の方々のものの感じ方考え方をなどをさりげなく私たちに伝えてくださいました(‘わんりい’HPに全文章を掲載しています)。

一年ほど掲載をお休みをしていましたが、3月号から「媛媛講故事」というタイトルで新シリーズの『中国の伝統神話』を書いて下さることになりました。

【何媛媛プロフィール】

中国山西省に生まれる。

山西大学外国語学部日本語専攻卒業。

2002年来日。現在、国士舘大学・中国語講師。

中国の伝統楽器である古箏の弾奏を趣味とし、仕事の傍ら、国際交流活動に積極的に参加している。

『中国の伝統神話』を書くにあたって

大学時代から、「鶴の恩返し」や「桃太郎」や、「竹取物語」など、日本の昔物語をいろいろ読みました。そのような物語を読んで、日本の事情をよりよく理解しました。中国にも沢山の伝説、神話があり、中国文化に非常に大きな影響を与えています。それらの物語を皆さんに紹介し、中国の理解に役立てて頂ければ、私としても嬉しいことです。(何媛媛)

前回まではマハラガマに集合してからお茶畑に着くまでの車中の様子を中心に書いてきました。今回からお茶畑でのピクニック編に入ります。

皆で手分けして駐車場から荷物を運び終わると、普段はのんびりとしていてイライラさせられるスリランカ人とは今日は全く違います。年長者は別として、若い人でも普段ならば足が痛いので疲れたのと言って直ぐに座り込んでティータイムに入ってしまう人達が、お茶畑の広場に着くやいなやマハラガマでの集合時に着ていた余所行きの服から、遊び着に素早く着替えを済ませてしまいました。これほど素早く行動するのは、ジャングルで象にでも追いかけれられない限りできないと思われるほど、かなり画期的な事です。

先に着替えを終わらせた人達は、荷物の中からクリケットの道具を探し出して、さっそく広場で年齢を問わず殆どの男性と中年ぐらまでの奥方達も参加して男女入り乱れてのクリケット大会の始まりです。

クリケットはスリランカで一番人気のあるスポーツでボールの様な物(正式名称は別にあるようですが、ここでは便宜的にボールと呼びます)を、バットの様な物(便宜的にバットと呼びます)で打って遊びます。クリケットは野球の原形と言われているだけに日本代表の僕もボールを打ったり捕ったりすることは何とかできます。但し、バットは分厚い木製でかなり重く、さらにボートのオールのように先端が平べったくなっているのが振りにくい形です。ボールも木製で、打ったボールが体にぶつかると、当たりどころが悪くと死んでしまう事があるそうです。専用のヘルメットもあるのだそうですが、もちろん今回はそんな物は用意してありません。遊ぶのにも決死の覚悟が必要です。守備側はグローブの様なものを用いますが、野球のグローブと違って鍋つかみの様な感じます。

それにしても僕がルールをよく知らないからでしょうか、何がそんなに面白いのかと思うほど熱狂的に汗みどろになってプレーをします。守備側のチームでは妙齢の女性も髪を振り乱して、守備陣の間を抜けたボールを追っかけてお茶畑の中に突進して行きます。バッターはボールを打つと両サイドに引かれたラインの間を行ったり来たりします。ボールがピッチャーの手元に戻るまでにライン間を一往復すると得点になるのだそうです。ピッチャーは数歩の助走をしながら腕をグルグルまわして

ボールを上手投げします。打者の真後ろのライン上に立てられている3本の棒のどれかにボールを当てればストライクなのだそうですが、逆にどんな場合がボール(ストライクの反対)なのかもサッパリ判かりません。攻守の交代もいつのまにか行われてしまい、僕は右往左往するばかりで、なんとも不思議なゲームです。

長打を打った時には、両サイドライン間を何度も往復しなくてはなりません。バスの中でのお酒が効いているのか、マンちゃんは長打を打つたのですが、走っている間にフラフラになってしまい、上手く走る事が出来ません。ピッチャーの手元にボールに戻るまでに、マンちゃんが両ラインの外側に出ればセーフで、ライン間に残ってしまうとアウトです。マンちゃんは際どいタイミングでラインを越えたのですが、親戚同士のお遊びプレーのはずなのにアウトかセーフかの判定をめぐってエキサイトして怒鳴り合いになりました。

どうやら、お遊びと思っていたのは僕だけで皆はかなり本気でプレーしています。プレーに参加していない年配の奥方達や幼い子供達も周りで盛んに抗議しています。ここにも、僕がこれまで知っていた大人しくて恥づかしがり屋のスリランカ人とは違う、今まで知らなかったスリランカ人がいます。どのような状況で勝敗が決まるのか、現在どちらのチームが勝っているのかさえ理解できないでいる間に試合は終わりました。

はっきりとは判りませんが僕のいたチームは負けたようです。たぶん僕が足を引っ張ったからでしょう。ちょっと前まであんなにエキサイトしていたのに、今はもういつものスリランカ人にもどっています。両チームのメンバーや周りで囃し立てていた人達も僕を気遣ってか、勝敗については言及しません。本当に優しく気持ちの良い人達です。

このクリケットと言うスポーツは、英国を中心とした英連邦国(英国の旧植民地の集まり)で特に盛んで、英連邦国間の国際試合では3デイズマッチ(3日間)とか5デイズマッチ(5日間)といった気の長い試合を行っています。何しろ、試合の合間にティータイムが設けられていて、どんなに熱戦を繰り広げられていても決められた時間になると、テントの下や木陰に集まって紅茶を飲むのだそうです。

こんなノンビリした一面があるところもスリランカ人に好まれるのかもしれませんが。(続く)

車はどこか見覚えのある場所に停車した。とうとう亜丁に着いたのだ。

「まず何か食べないか？ まだ早朝だ。そんなに急いで行く事も無いさ」

アーロンが言った。みんなも同感だ。

他の車に乗っていた乗客達はすぐに出発したようだったが、私達は公園管理事務所の裏手にある小屋の中に入っていた。8月とはいえ、高度の高い土地である亜丁の朝はかなりの冷え込みで、小屋の中にストーブが焚いてあったのが嬉しく、私は真っ先にストーブの脇に転がしてあった丸太の上に陣取って腰掛けた。

そこは食堂という訳ではなく旅行者が宿泊なども出来る場所なのだという事だったが、部屋の中には山の道具や馬の鞍などが雑然と置かれていて、どちらかといえばタクシードライバーや亜丁でガイドやポーターなどを行っている地元の者たちの休憩所のように感じられた。一応中国語で書かれた手書きの、麺の名前ばかりがならんだメニューもあり、それぞれが自分の好きなものを注文すると、その場にいた男が一つしかない鍋とコンロで、のんびり一つ一つのオーダーを作り出した。ひとつ作り終わっては、次の料理を作るのだから時間がかかる。

別に急いでいる訳でもない私達はのんびりと自分の麺が出来上がって来る順番を待ちながら、ここまで運転してきたタクシードライバー達やその場にいた地元の人達とストーブの回りで輪になって談笑した。

気のいいドライバー達はそれぞれに、「亜丁に来たいという旅行者がいたら紹介してくれよ」と例のワンパターンな車の絵の名刺を取り出して私たちに配り、又しても私の手の中には数枚の名刺が溜まってしまった。誰かに紹介するにしたってこれじゃあどの名刺を渡したら好いものやかわからないじゃないか。

「馬はどうだい？」

その場にいた馬方も自分の馬を売り込んでくる。それに乗って亜丁観光しないかと誘っているのだ。

公園管理事務所からおおよそ7、8キロ程緩やかな坂道をのぼっていったところには洛絨牛場と呼ばれる三方を山に囲まれた湿原があり、夏には可憐な高山植物があたり一面花の絨毯の様に咲き乱れ、土地の人が神と崇める亜丁三大神山のうちの央邁勇、夏若多吉の二大神山が真夏でも融けない雪と氷の冠を戴いた姿で眼前にそびえ立つ、まさに桃源郷のように美しい亜丁自然保護区メインの景勝地となっている。亜丁を訪れるほとんどの観光客は公園入り口の管理事務所で馬を手配するとそれに跨って洛絨牛場まで行くのだ。

以前、私がこの地を訪れた時にも馬に乗った。

ただ皆について行っただけで全く旅程を把握していなかった私は、その時まで馬に乗る事など思いもよらずにいて、亜丁に到着したバスを降りたところに鞍をつけた馬のたづなを引いて馬方達がゾロゾロと集まってきたところで初めて「え～！！馬に乗れるの～！？」とはしゃいだものだ。

キャンプ用の衣服や寝袋のつまったみんなの大きなザックは1頭の馬の背中にまとめてくりつけ、私達は手ぶらで馬の背中に跨り、美しい風景を満喫しながらのんびりホーストレッキングを楽しんだ。

しかしながら今回は事前に旅費を振り込み、すべてを案内人にまかせた大名観光旅行ではなく、乏しい経済状況をやりくりしながらの貧乏バックパッカー旅行者の私だ。日本円から中国元への両替を忘れていたところを烏里氏の友人に急場を救ってもらい、いくらかの中国元を手に入れてはいたが、それはこれから先の旅程を思えばまだまだ心もとない金額だった。とりあえず何処かで再び両替できるまでは出来るだけ儉約に努めなければならない状況だ。

馬の歩みは人が歩く速度とさほど変わらず、以前馬に跨って通った道のりを思い返しても歩けない距離ではなかった筈だ。でも・・・

みんなの目が、私の大きなザックに注がれていた。サブザックと合わせれば10キロ近くはありそうに見えた。

「元子、この荷物どうするつもり？」

心配そうにシャオチンが私の顔をのぞきこむ。

「俺たちは歩くけど、君は馬を雇ってもいいんじゃないか？ こんな荷物を自分で背負っていくのは大変だ。じゃなきゃ要らない物は出してここで預かってもらえよ。亜丁から帰る時に取りにければいいさ」

シャオチンの言葉を継いでアーロンも言った。

しかしその時の私は、何故か頑なにこの荷物は亜丁に滞在するために必要な物だから置いていく訳にはいかないという気持ちを変える事ができなかった。

公園内にはいくつか宿泊施設のある場所があるらしかったが、私は前回亜丁を訪れた時に滞在した洛絨牛場に泊まる事に強くこだわっており、いざとなったら野宿も辞さないくらいの覚悟も少しはあったのだ。しかし公園内の宿泊施設について尋ねると誰もが泊まれる場所はあるとはいうのだが、洛絨牛場についてはどうもはっきりしない。地元の人たちにしてみれば自分達は泊まらないので詳しくは知らないという事なのだろう。

「ううん、いいの。荷物は全部持って行く。でも馬は高いから雇いたくないなあ・・・」

どうすれば良いか決断しあぐねていると、その場にいた男達が「ポーターはどうだ？」と新たな営業を仕掛けてきた。

と、いつの間にかその場に来ていた少年が手を上げると笑顔で前に出てきて「俺がポーターするよ！ どう？」と名乗りを上げた。年の頃は15、6歳と思われる、ほっそりした体型のまだ幼さの残る顔立ちの少年に「いくら？」と尋ねると、少しはにかんだ様子で「俺、判んないや。あなたが決めて」と答えるのだ。

どうやら職業としてポーターをやっている訳ではなく、少年がお小遣いを稼ぐためのアルバイトを申し出ているような感じだ。

彼の商売っ気のなさに引かれ、この少年を雇ってもいような気持ちになった私は「相場が判らないから、いくらなのか言ってよ」と更に尋ねるが彼も同様に答えずにいるのを見かねたように、アーロンがその場にいた大人たちを振り返り「いくら位が丁度いいかな？」と声をかけた。

数人の男達が口々に適当な金額を口にして意見がまとまると、ここまで話が進んだのを断るのも野暮だと可愛い顔をした少年を雇うことに決めた私は、とりあえず一番近くのポイントである、途中の沖古寺まで30元という事で話を決めた。その時点での私は沖古寺が現在位置から洛絨牛場までの道のりで、何処のポイントにあるのかも良くわかっていなかったのだが、そこから先の事は行き当たりばったりだ。とにかく現在の垂丁の様子がどうなっているのかもよくわかっていないのだ。

それぞれが麺も食べ終わり、そろそろ出発しようという場合に、タクシードライバーと話していたアーロンがタクシー運賃を払うために私を呼んだ。稲城から垂丁までは200元という事だったので4人で乗ってきた私たちは一人50元という訳だ。私がお金を支払おうとすると、それを遮るようにアーロンが言った。

「なあ、俺達は彼のおかげで垂丁の入場料150元を払わずにすんだんだ。だからいくらか彼にお礼しなきゃならんんだが、ひとり100元でどうだ？」

どうせ払わなきゃならなかった金だから惜しくはないさ。彼はとてもいい奴だし、旅行者から入場料をぼったくってる管理事務所に納めるくらいなら、彼にあげたほうがいいってもんだ。ウインはガイドのパスを持っているから元々入場料を払う必要は無いんで、俺とシャオチンと君とで300元彼に払うことにしよう」

(ええええー！?)

私は内心叫び声をあげた。それはタクシードライバーの彼に払うお金が惜しいと言う事よりも、その金額の高さに驚いたからだ。

彼が稲城からここまで3時間かけて車を運転する代金

が200元だというのに、旅客がもぐりで自然公園に入場する手助けをするのが300元！?

しかもそれはタクシードライバーが請求しているのではなく、アーロンが申し出た金額なのだ。昨日、上海小姐から都市部で働く一般的なOLの月給が1000元程度だと聞いたばかりだ。都市部と比べてさほど現金収入のなさそうな地方の人間にとっての300元とは相当な価値がある金額に違いない。タクシー運賃と合わせればこの日の彼は早朝ほんの数時間車の運転をただけで、都会のOLが稼ぐ月収の半分を手にしてしまう事になる。それがこんなに簡単に手に入ってしまうのだろうか。

アーロンがこのことに関して事前に相談してくれなかったことが腹立たしかったが、タクシードライバーが嬉しそうにニコニコしている目の前で、そんな金額は高すぎるとも言えず、私は納得のいかない気持ちのままタクシー乗車賃の50元を含め150元を彼に支払った。

さっきまではこれで旅費が節約できたと喜んでいただけで、私も相当現金なものだが、一言では言い表せないような重い気分を味わうことになるなら、あの場で普通に150元払った方が良かったように思えてくる。

私にはアーロンの気持ちも分かるような気がした。明るく快活な彼は間違いなく好青年だ。自然を愛し、単なる観光よりは人との触れ合いや会話を求め、積極的に土地の人たちとの関わりを持とうとしていく。出来るだけ無駄な出費を抑え質素に旅を楽しみながら、土地の文化や食べ物に興味を持ち理解しようとする彼の旅のスタイルは、観光客としての目線ではなく、できるだけ土地の人たちと同じ目線で同じ生活を体験したいと願う私の旅のスタイルに共通していた。

昨日の出会いから今まで、温泉宿の家族やタクシードライバー達と普通の旅行者以上に親しく語り合う機会を持つ事ができたのもアーロンと一緒にだったからだ。

結局、アーロンは、自らの好む土地の人たちが好きなのだ。その好意を表現するために気前よくお金を払い彼らを喜ばせたいだけなのだろう。

だけど・・・なんで先に相談してくれなかったの？心の中でつぶやいた。

私の複雑な気持ちとは裏腹に、アーロンは自分の行動に満足している様子だった。

一度は入場料を支払わずにすんだと喜んでいて私にはどちらが正しいとも言い切れない問題だ。夢に見ていた垂丁との再会は、思いもよらずほろ苦いスタートをきる事になってしまった感じだ。

せっかく憧れていた土地に着いたばかりだというのに・・・

人の良すぎるアーロンがちょっぴり恨めしかった。

(次号に続く)

その昔独立国であった、チェジュド 濟州島、タンラ 耽羅国は韓国本国とはまた別の神話と文化を持っている。東西に長い楕円の形の、島の真ん中にハルラ 漢拏山がドンと座っている。濟州島は、この火山によって誕生した。海拔1950メートル、韓国最高峰の漢拏山登山を北の人たちは生涯の夢とし、南の人々はベクト 白頭山に死ぬまでには行きたいと語るそうだ。

高麗時代に併合された耽羅国と、明治政府が行った廃藩置県の過程で日本に併合され、沖縄県となった琉球国とは、少なからず重なるところがあると感じた。

さて、耽羅国の建国神話は、島の北側サムソンヒョル 濟州市の三姓穴にある。三神人が穴の中から生まれ、狩猟生活をしていたが、五穀の種と家畜を連れて東海からやって来た三人の姫を妻に迎え、カン 農耕生活が始まったという。

ドライバーの姜さんが「三神人の姓の高、梁、夫を名乗る人は元々からの島の住人で、それ以外の姓は島流しの人の子孫です。勿論私もそうですよ」と、淡々と話してくれた。流刑者は、政治犯や思想犯（学問、教養に優れ、地位も身分も高い官吏が政治闘争に敗れたり、無実の罪であったり）が大多数であった事は、姜さんたちの誇りなのかもしれない。

三姓穴に行くのには、足場が悪いとの事、残念ながら話だけで素通り。海の神ヨンドウンハルマン、チリモリダン等々、日本人の私たちには舌を噛みそうな神々の話がガイドブックに満載なのであるが韓半島との違いなど認識できるはずもない。宿泊したホテルの火山噴水ショーもチェジュド の神話をベースにスペクタクルストーリーが毎夜繰り広げられる。竜か魔物か、あるいは魔人か天の神か、夜空を赤々と焦がし、ゴーゴーと水の柱が沸き立ち、観光客を喜ばせているのだ。

サムダド 三多島石多し、サムムド 風多し、女多し。三無島乞食無し、泥棒無し、門無し。門と言えなくもないが、人家の入り口に、三つ丸い穴を穿った1メートルほどの石柱を向かい合わせて立て、チヨンナンと呼ばれる3本の細長い丸太を穴に差し込めば、家人は終日不在を表す。2本ならば長時間の外出、1本ならばすぐに帰宅するという意味。泥棒がいたら小躍りして喜ぶメッセージだが、ここはチェジュド 三無島である。しかし現在では、家の造りそのものが変化した事もあり、昔ながらの風習を守る事も少なくなっている。

ソンクッ 城邑民俗村は生活者が住む村で、茅葺きの家や碑石、城跡が昔そのままに保護されている。小柄な黒豚がチョロチョロ走る囲いの石垣の一角は、チェジュド 独特の便所で屋根がない。上から落ちてくる餌を、口を開けて突進してくる黒豚に対して、木の棒で追い払いながら用を足したそうだ。

村の住民ガイドが面白く楽しく説明する。そのガイドのお勧め、村の特産品オミジャチャ “五味子茶”を我らも購入した。甘くて酸

っぱいオミジャチャの効能は如何に…。

チェジュド の女性は昔から働き者で頑張りや、弱音を吐かず一家を支えて生きてきた。民俗村や博物館に入るとすぐに目につくのが水瓶を背負った女性の石像だ。ちょっと身体を傾げて水瓶から勢いよく水がほとばしり出て噴水になっている。チェジュド の海女の潜水能力は世界一という。彼女たちが危険と隣り合わせの糧を、私たちは“鮑尽くし”の料理として舌鼓を打ち、満腹満足してホテルへと戻っていたのだが、日本では決して食することのできない贅沢な経験であった。

ハンモン 抗蒙遺跡址、サムピョルチョ 三別抄の戦いの跡。時は13世紀、高麗末期。ユーラシア大陸にまで勢力を伸ばした、モンゴル大帝国を相続したフビライは、高麗を襲って来た。30年に亘って抗戦し続けた高麗王朝も内部抗争と、モンゴル軍による国の荒廃のため、和睦という名の事実上の併合に膝を屈した。避難先のカンファド 江華島から開城へ戻ったが、あくまで抗蒙を叫ぶ三別抄は江華島を本拠地として1270年5月挙兵する。もともと三別抄は豪族催氏の私兵であったが高麗王朝の弱体化とともに事実上の国軍になっていた。しかし高麗が降伏した時点で彼らは反乱軍になったのだ。

フビライは国号を“元”と改称し、都を大都（現、北京）に置き、遊牧から農耕へと一大転換を示し、高麗のあとは日本を狙っていた。1270年6月、西南の珍島へ移るが元、高麗連合軍に撃破された三別抄は、耽羅へと落ちる。1271年には鎌倉幕府へ救援を求めも黙殺される。しかし、彼らはここで大いに武威をふるい、高麗政府の送米船を襲い、海上権を確立したりと、国とモンゴルを相手に前後4年も戦った。その強い意思、意識は驚くべきものだ。

1273年、勇猛果敢に戦った三別抄はここに完全鎮圧される。元は耽羅を高麗から切り離し直轄領にしたのである。漢拏山の裾野の草原に駐留するモンゴル兵がモンゴル馬を放牧し、そして1360年代、明に敗れた元が北帰した後もそのまま土着したらしい。小さくてよく働く馬がチェジュド のチヨランマルとして今も活躍している。高麗王朝が滅ぶのは1392年、服属させられた元よりもやや長命だった。

漢拏山の西北、「抗蒙殉義碑」は静かなたたずまいの、かつての激戦地にひっそりと建っている。小さな資料館に入れば彼らの戦いの軌跡が絵画で紹介されている。ここを訪れた有名人のサインが展示してあった。チヨンドファン “全斗煥”、キムデジュン “金大中”これは面白い、宿敵同士が参観している。日本からは“中曽根某”、“左”からの参観者はおらんのかい？

資料館をでて、しばらく行くと延々と続く土塁が目についた。三別抄の抵抗の跡だ。晩秋の風が吹き抜けていった。

李氏朝鮮時代になると、牧使という総督がチェジュド に

やって来る。済州府となり、流刑者の管理、倭寇対策、駐留する官吏や兵士の練兵場も兼ねた、観徳亭が15世紀、世宗大王時代に建てられる。観徳亭と扁額のある、屋根と柱だけの建物を左手に「済州牧使官衙址」の門をくぐれば牧使を長とする政治、行政を司るお役所の数々。

奥まった建物の中には、チャングムでお馴染みミンジョンホが着ていた赤の上着に青の帯、羽飾りのついたカッ(山高帽)、色とりどりの数珠玉より大きな帽子紐(?)姿のお役人が、日本風に言えば拷問道具の鎮座しているお白州を睨んでいる。

観徳亭の近くに官吏の子弟が通う郷校があった。李氏朝鮮王朝の科挙合格を目指して勉学に励んでいたのだろう。五賢壇^{オヒョンドン}という五つの碑石がある。流刑者となって来た者、官吏として済州府に来た者、5人のチェジュドの発展に貢献した賢人を讃えるための祭壇という。姜さんに「恋北亭」へ行きたい、と伝えたがベテランドライバーの姜さんは首を傾げて、希望は叶わなかった。流刑となった彼らが恋る北とは漢陽^{ハニヤン}(現、ソウル)の都に違いない。

1945年日本が無条件降伏をすると、朝鮮半島はアメリカ軍とソビエト連邦軍とに、38度線で南北に分割占領され、軍政が敷かれた。チェジュドでは1948年4月3日、李承晩政権による北朝鮮抜き単独選挙に反対する民衆蜂起事件が起きた。

南朝鮮労働党が関与しているとされ、政府軍と警察による肅正と鎮圧によって、多くの島民が虐殺された。完全に鎮圧された1957年には8万人もの島民が殺害されたとも言う。植民地時代に日本へ出稼ぎに行ったり、定住したりする人

の多くはチェジュド出身者であったというが、四・三事件の難をのがれるため再び日本へ渡航し、あるいは命からがら密出国をしたりで、島民の人口は激減してしまった。

朝鮮労働党が絡むとされ、また犠牲者があまりにも多く、軍事独裁国家であった韓国は“反共”を国の方針と定めたため、責任の追求もされず、事件を語ることはタブーとされてきた。21世紀になって韓国大統領となった盧武鉉^{ノムヒョン}は、自国の歴史清算事業を進める中で、島民と事件に関する懇談会を開いた。2006年10月大統領として初めて犠牲者慰霊祭に出席、正式に謝罪し、事件の真相解明を宣言したのだ。

私たちが「四・三事件慰霊碑」を訪れたのは2007年11月初旬、小高い丘の上にタクシーを停めて、見下ろすと広い敷地の右側に建設中の丸い建物がある。この中には犠牲者の名前を刻んだ碑があるそうだ。敷地の中央にはモニュメントらしい構造物が日没間際の薄暮のなかに見える。そこから白い階段がこちらまで続いている。歩いて敷地内の掲示板まで行ったがチェジュドは寒い、風が吹くと体感温度は更に下がる。歯の根が合わなくなって右手に慰霊塔を見ながら急いでタクシーに戻った。姜さん曰く、チェジュドから国会議員が出ると、ここの工事をもっと早く終わるのだが…。なるほど、もっと早く事件の真相も明らかになるだろう。犠牲者の皆様に心から合掌。

チェジュドの文化や歴史をゆっくり辿った3泊4日の旅、済州民俗自然博物館やトッケビ道路の不思議体験。最終日の明るい日差しに七色の虹が架かった天地淵の滝、伽羅蔞の黄色い花や南の海岸沿いで見た夕焼けの美しさ…。機会があれば、再びこの地を踏みたいと思う私でありました。

松本杏花さんの俳句「余情残心」より

縮緬は母の形見よ吊るし雛

chéncén jiù zhòushā
沉沉旧绉纱
cí mǔ yí wù kǎn wú jià
慈母遗物堪无价
diào ǒu jiāzhōng guà
吊偶家中挂

季语：吊偶，春。

赏析：绉纱是一种工艺复杂的丝之品，制作时纵向不捻紧的生丝经平织，洗练，产生出独特的皱褶。

此句是作者怀念母亲之作。幼时过女孩节时，母亲都送他一个偶人。如今挂着的这个吊偶，正是慈母留下的遗物啊！我国宋朝李清照曾写《偶成》怀念丈夫：“十五年前花月底，相从曾赋花月诗。今看花月浑相似，安得情怀似昔时。”虽然两首诗作怀恋的对象不同，但都让人感到诗人心中的悲酸。

浮き雲や白木蓮の溶け込まん

fúyún piāo duǒ duǒ
浮云飘朵朵
jié bái yù lán huā zhuó zhuó
洁白玉兰花灼灼
xiāng dié bù róng hé
相叠不融和

季语：木兰花，春。该花为玉兰科落叶乔木，春季

开花后出叶，花大色白，香气浓郁。

赏析：我国古诗有“遥知不是雪，为有暗香来”的咏梅名句，此首俳句与之有相通之处，只是单纯地显现出了视觉美。天上的朵朵浮云与地上的白兰花相映成趣，但浮云毕竟是浮云，虽然与白兰花重叠在一起，但却未聚成更大的浮云，也未化为更大的花朵。

此句构思精巧，余韵悠长。

▶ 大キリスト教会を訪ねて

今回は大連市内と荘河にあるキリスト教会の状況や日曜日の礼拝に出席した折の様子などをレポートしたいと思う。

中国ではキリスト教はあまり表面立って活動できないとか、あるいは弾圧されているというような声を耳にするが、果たしてそうなのだろうかと大いに興味があつた。

日曜日教会に出かけると、どこでも教会の中は人でいっぱい、ぎりぎりで行ったり少しでも遅れて行ったりすると、会堂の中には入れず、外でマイクを通しての話を聴くことになる。また、教会によっては、日曜日に何度も礼拝が行われているところもある。おそらく教会に来る人の数の割には教会数が少ないということが言えるのかも知れない。どの教会も入りきれない人々が外で聴いているのを目にすると、中国で教会の活動が制限されているというようなことは到底信じられない。

中国のクリスチャン人口は、プロテスタントが1500万人、カトリックが300万人という数字が出ているが、全人口が13億人を越えているので、人口の割には多くはない。しかし、日本のクリスチャン人口が1%強程なのに比べると、はるかに多いことは確かである。

大連に住む知人の調査に基づくと、大連市内にプロテスタントとカトリックの両方を合わせて主要な教会が7つあり、この数ヶ月時間をみつけて、いくつかの教会をその調査をもとに訪ねてみた。他にももちろん小さな教会があるかもしれないので、実際の明確な数はわからない。これらの教会以外に教会ではないが、外国人を対象にした集会もいくつかある。教会や集会に出席した状況から、中国におけるキリスト教の様子を幾分か垣間見ることが出来るかも知れない。

大連にある7教会は次の通りである。1から4と6・7までがプロテスタント教会で、5がカトリック教会である。中には戦前からの古い教会もある。

1. 基督教玉光街礼拝堂
2. 承恩堂(旧北京街教堂)
3. 興工街礼拝堂(朝鮮人を対象とする)
4. 基督教大連豊収堂
5. 大連市天主教堂
6. 金州礼拝堂
7. 旅順礼拝堂

「基督教玉光街礼拝堂」は中山広場のすぐそばにあり、かつて英国大使館があつたところにある。11月のある

日曜日に礼拝に訪れたところ、それほど広い会堂ではなかったが多くの人が詰め掛け、入りきれない人々が寒空のもとでメッセージを聴いていた。この教会はかなり歴史のある教会のようで、1928年イギリスと日本の聖公会が共同で建設したそうである。そのため教会の敷地はかつて英国大使館のあつたところに建てられたそうである。

「承恩堂」は基督教玉光街礼拝堂と同様古い歴史を有する教会で、同じく1928年にデンマークのルーテル教会が建設し、かつては北京街教堂と呼ばれていたが、2006年11月に承恩堂となった。ここも1日に何回も礼拝があり、毎回多くの人々が詰めかけているようである。

「興工街礼拝堂」は朝鮮人を対象としたプロテスタントの教会である。中に入ることは出来なかったため、内部の様子は分からない。資料によると、この教会はもともと友好広場の現在KFCの所にあつた日本長老会の分会として建てられたが、戦後に朝鮮族の教会となったそうである。

「基督教大連豊収堂」はまだ行ってないので、どのような教会か分からないが、近く行ってみたいと思う。資料によると、この教会はわりと新しい教会で、2001年に出来たとあり、4000人も収容できるそうである。飛行場・西北路と東北高速公路・金三角の中間点にある。

「大連市天主教堂」は歴史あるカトリック教会で、日本時代の1926年にメリノール会が建設する。多くの日本企業が入っている大連森ビルから北へ5分くらいのところにある。

大連にはその他に「金州礼拝堂」と「旅順礼拝堂」という教会があるが、詳細はわからない。

荘河にある教会には、9月末に初めて訪ねてからもうすでに6～7回日曜日の礼拝に出たことになる。寮から歩いて15分くらいのところにあるので比較的行きやすい。教会の名前は「荘河市基督教新華街道教堂」と言い、プロテスタントの教会である。教堂とは教会のことである。毎週日曜日午前8時から9時半まで聖日礼拝がある。しかし、実際8時と言っても、この時間に行くと、もう入りきれないほどで、20分前に行ってもどうにか座れるくらいである。礼拝の前に30分位賛美歌の練習(?)が行われている。来ている方たちは割りと中高年の人が多いような気がする。あまり若い人は見かけない。15、6人から成る聖歌隊もあり、賛美の際の斉唱の指導をしていたり、礼拝の前に歌ってたりしている。

礼拝は牧師の祈祷から始まり、信仰告白、賛美、牧師のメッセージ、主の祈り等全体の流れは日本の教会と変

わらない。ただ、違いがあると言うならば、中国の教会のほうに熱気にあふれているという気がする。信仰告白の時の熱気は凄まじい。個人個人で声を出して祈るが、その祈りは大きな声で10分以上も続いている。また、牧師のメッセージの時にも、「そうだ！ そうだ！」(そう思うが・・・)と言うような声がしばしば入る。メッセージの内容はほとんど分からない。時々聖書に出てくる人物の名前や地名などが聞きとれる程度で、すべて中国語で話されており、皆目分からない。隣に座っている人が聖書の箇所を教えてくれたり、歌う賛美歌の番号を教えてくださいたりする。私が賛美歌集を持っていないのがわかると、自分のものを見せてくれたりした。12月23日はクリスマスの礼拝が行われた。

教会での礼拝以外でも、主として外国人を対象とした集会在二つある。

ひとつはInternational Christian Fellowship というグループで、毎週日曜日に大連市内のスィスホテルで行われている。1回目の礼拝は9時から10時半までの英語による礼拝である。2回目は10時45分からの韓国語と英

語による礼拝で、どちらも大体30人くらいの出席者である。前者は主に欧米系の人たちやインド人が集まり、後者は韓国人がほとんどである。日本の人も数人出ているようで、英語の礼拝の折にお会いすることがある。両方とも説教をされるのは韓国人女性の方で、ご夫妻で活動されているようである。

もうひとつの外国人を対象にした集会は元イギリス大使館のあった場所にあるビルの中で、同じように毎週朝10時から開かれている。こちらは中国人の方が説教や奉仕をされていて、来訪される日本人の方も多いため礼拝は日本語と中国語で行われている。こちらの礼拝はホーリネス系の集会のようで、International Christian Fellowship に比べると、やや熱気を帯びていて、圧倒されるところがあった。

これら2つの集会は大連在住の日本人の方に教えていただき、行ってみたが、その後大連に出る折にはInternational Christian Fellowship に出席している。時々このような集会に出て英語や日本語の説教を聞くのもなかなか刺激となっていていいものである。

中国で出会った少女

小山芳雄

もう10年ほど前になるが、中国旅行の折、ハルビンから長春までの汽車の中で、中国の女子中学生と出会い思わぬ交流を経験をした。当初、軟座に乗車する予定であったが、硬座の車両しか連結していないことから出会いが始まった。私の座席の隣に空席があったので、側に立っていた少女に座ることを勧めた。見るからに育ちの良い利発そうな顔立ちの少女と旅の道連れとなり、車中で筆談を交えた会話が始まった。

中学3年で17歳という少女は名前を『陳良』と名乗った。私たちは日本からの旅行者であると告げると大変興味を示し、話が弾み約4時間はあっという間に過ぎた。少女は日本に対して大変関心を持っているらしく次々に質問をしてくる。片言の中国語と筆談を交えた会話は続き、下車駅の長春まで途切れることがなかった。

彼女の話によると中国では小学校5年、中学校4年までが義務教育であるとのことであった。卒業後の希望を訊くと、理想としては難関ではあるが北京交通大学に進学して勉強し、祖国のために働きたいと目を輝かせて話してくれた。やがて下車駅の長春が近づいたので「そろそろお別れですね」というと、あり合せのメモ用紙に、だいたい次のようなメッセージを書いてくれた。

『私は日本の優しい親切なオジサン達に逢うことができたいへんうれしい。希望する大学に進学した後も、

今日のことを機会あるたびに思い出すでしょう。私の理想は祖国のためになる人間になることです。皆さんの旅行が楽しく、万事意の如くなることを祈っております』

長春駅のプラットホームに降り立ち、「謝謝！ 再見！」「再見！ 再見！」の言葉と堅い握手を交わして別れたが、一陣の涼風が吹きぬけるようなさわやかな印象が残った。

今、日本では17歳の少年犯罪が多発し問題になっているが、次世代を担う、この中国の少女たちが大人になり社会の第一線で活躍する頃には、中国はもっと充実したい国になるのではないかという思いを強く抱いたことであった。



アフリカとの出会い (23) 大統領選挙後の暴動について思う

竹田 悦子 アフリカン・コネクション代表

去年の年末12月27日行われたケニア大統領選挙。誰もが、いつものように平和的に行われ、新大統領が選出されるだろうと想像していた。なのに、結果として歴史に残る最悪な選挙となっている。

簡単に状況を書いてみると、与党の現大統領キバキと野党ライラ氏一騎打ちのような格好となっていたのだが、30万票差でキバキの続投が決まりかけていたところに「票の数え方に不正があった」との情報が流れ始め、野党のライラを擁護する人々によって暴動が始まっていった。この2人は42民族あるケニアで、22%を占めるキクユ族のキバキ、16%を占めるルオー族のライラ。つまり多数部族の代表であり、キクユ族は、首都ナイロビを囲む中央ケニアと呼ばれる地域に多く、ルオー族は、ウガンダとの国境近くのビクトリア湖沿いの西ケニアと言われる地域に多く住んでいる。

問題は、票の数え方や数えられていない投票箱が発見されたとかというより、民族同士の根深い対立の様相を見せ始めたところにある。ケニアの大統領はイギリスからの独立後、キバキで4代目であるが、初代大統領のケニヤッタはキクユ族、2代目大統領のモイは、少数民族のカレンジン族、そして3、4代目のキバキはキクユ族。

なぜこんなにも民族にこだわるかと言うと、やはりそこには民族優遇の背景があるのだ。ルオー族は、政治的にやはり遅れをとっている。モイ大統領は、汚職まみれの大統領として長期政権を続けてきた。その怒りが、4年前の「汚職を追放しよう」とスローガンを掲げたキバキを大統領にした。しかし、「キバキも汚職を追放できていない」とルオー族は言っている。

ケニア国内は、民族移動が激しい。経済が発展している大都市に向けて民族は移動する。その経済が発展している所と言うのは、キクユ族が住んでいる町、また土地を広大に所有するマサイ族から買い、キクユ族が発展させた町などが多い。キクユ族は、農耕民族で、商売の才もあり、ビジネスを得意とする人達が多い。経済の面で優勢なキクユ族。政治面でもその他の民族をリードしてきた。いろいろな民族が同じ地域に住むということが、経済の発展に伴って増えてきている。スラムなどは、民族のるつぼ

である。

そういう場所で、ルオー族は日ごろのストレスを爆発させるがごとく、キクユ族を殺戮し始めたのだ。同じ町に住む、いつもは仲良くしていたはずの住人同士をナタや棒で虐殺し始めたのだ。

スラム、学校、教会、道ばたで、男女、年寄り、子どもを問わず。そもそも違う民族同士が、植民地政府イギリスが決めた国境の中で暮らしている。そして町を離れるキクユ族。国内難民となってしまった。世界的にケニアの名前を政治不安定な国として有名にしてしまった。ルワンダの惨劇を思い出さずにはいられない。民族同士が殺しあう。日本人の私には理解しがたいところもあるのだが、キクユ族の夫は言う。

「アフリカの恥だ、ニュースを見たくない」

「民族を超えていかなければ、ケニアを発展していくことは出来ない」

12月から現在まで、観光客は40%も減っている。経済的に計り知れない代償を払っている。「民族の知恵を。人間の知恵を」と夫は繰り返す。

‘わんりい’のおたより会員継続のお願いとお誘い

年会費：1500円 入会金なし

郵便局振替口座：0180-5-134011 ‘わんりい’

毎年、4月は‘わんりい’おたより会費更新の月です。

おたより会費は主として、おたよりの制作費及び送料として充てられますので、継続会費(1500円/年)の納入(上記)はできるだけ3月いっぱいをお願いします。新規入会も歓迎します。

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催など文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。また、2月と8月を除いて年10回、会報‘わんりい’を発行し、情報の交換に努めています。

入会はいつでも歓迎しています。

活動の様子は、おたより又は‘わんりい’HPをご覧ください。問合せ：042-734-5100 (事務局)

《とても楽しかった! 2008 'わんりい' 新年会》

2008年1月27日(日) 於: 麻生市民館・料理室

1月27日(日)、「わんりい」新年会が定番の「シュワンヤンロウ(羊肉のシャブシャブ)のお鍋を囲んで開催されました。

「わんりい」の15年間の活動で関わった中国の方々が、今年もまた同窓会に参加されるようにお出でくださり、会員達とともにシュワンヤンロウで舌鼓を打ち、談笑し、ビンゴや福引で笑いあったとても楽しい3時間でした。

超薄切りのラム肉を特性のタレで頂く寒い冬ならではのシュワンヤンロウ。新年会が終わるともう来年が待ち遠しくなる美味しさです。シュワンヤンロウの食べ方を指導くださった中国の方が当初の頃「40人なら15kgは必要です」ときっぱり言われた時、日本人の私たちは「まさか」と目を丸くしました。

そんな私たちも、とんでもないその美味しさに目覚めたのでしょうか。何年か前までは8kgで十分だった羊肉が、今年はなんと12kg用意しすっかり平らげました。15kg必要というのは中国では本当かかもしれません。

まだ参加されたことのない皆さん、来年はぜひ参加してみてください。北京の街に「涮羊肉」の看板が並んでいる訳が分かりますよ。

■参加の中国人の皆さん(アイウエオ順)

- ◆ 翁子玉さん(囲碁棋士)
- ◆ 何媛媛さん(国士舘大学講師)
- ◆ 韓鑫さん(国士舘大学国際交流センター 何媛媛さん夫君)
- ◆ 呉万新さん(作曲家 趙鳳英さんの夫君)
- ◆ 呉禎さん(呉万新さんと趙鳳英さんの愛娘)
- ◆ 崔宗宝さん(オペラ歌手・バリトン)
- ◆ 銭騰浩さん(中国民族楽器・笙演奏)
- ◆ チ・ブルグッドさん(馬頭琴演奏)
- ◆ 張紹成さん(京劇俳優武生役)
- ◆ 趙鳳英さん(歌手/中国語で歌う会指導)
- ◆ 満柏さん(中国画家)
- ◆ 陸海栄さん(中国演劇昆曲俳優)



● 会員の河本義宣さんと佐々木健之さんが撮影くださった新年会の写真の中から何枚かを選んで「わんりい」のホームページにアップしました。楽しい様子をご覧ください。

【「わんりい」の原稿を募集しています】

「わんりい」会報は、「わんりい」の会員と関係者の皆さんから寄せられた原稿でまとめられています。

「わんりい」の頭には日中の冠を載せていますが、中国に限らず各地(主としてアジア)で体験された楽しい話、見聞した面白い話、美味しくて珍しい食べ物の話などなど、気楽にお寄せいただいているいろいろな角度から諸国の文化に触れてみたいと思います。

紙面が16Pと限られていますので、掲載まで暫くお待ち頂くことがあります。また、紙面の都合で作者のご了解の上、余儀なく手を入れたり、カットさせて頂いたりすることもありますのであらかじめご了承下さい。

尚、原稿の締め切りは20日ということにしていますが、編集の都合上、早めに頂ければ有難いです。(田井)



待ってました、この瞬間!



「千の風になって」を歌うオペラ歌手の崔さん



「中国語で歌おう! 会」メンバーたちが「昴」を歌う

hé yuányuán 何媛媛さんと一緒に 中国山西省の家庭料理を作って見よう!

昨年春は、何媛媛さんに美味しい餡餅の作り方を教えていただきました。(「わんりい」HP料理のコラム参照)

今年は中国は山西省の家庭料理に挑戦です。食べるだけでも歓迎です。

・3月15日(土) 10:00 ~ *食べるだけの人: 12:00

・於: 三輪センター TEL044-987-1951

〒195-0055 三輪緑山4-14-1

小田急線鶴川駅④番バス停

緑山住宅循環「ゆりの木通り」下車5分

参加申し込みの方にバス時刻表と地図を送ります。

・参加費: 2,000円

・申込み&問合せ: 042-734-5100 「わんりい」



銭騰浩さんと趙鳳英さん等のライブ
【中国民歌&二胡と笙の世界】

2008年3月8日(土) 18:30～

於：上海不慮の事故により下北沢店

(小田急線/京王井の頭線「下北沢駅」南口徒歩4分)

会場が使用できなくなりました

磯村 中止になりました

・出演：銭騰浩(笙) 趙鳳英(民謡) 白健氏(二胡)

・チャージ：5,000円 要予約

*コース料理&ワンドリンク付き

・問い合わせと予約：03-3481-2639

ウェイウェイ台所下北沢店

チ・ブルグッド & 美炎

【2つの馬頭琴コンサート・Vol.2】

▶日時：3月30日(日) 14:00開演(開場13:30開場)

▶於：美浜文化ホール (<http://www.mihamahall.jp/sch.html>)

(J R 京葉線「検見川浜駅」北東方向へ500m)

千葉市美浜区真砂5-15-2

▶参加費：3,000円

当日：3,500円

▶出演：

チ・ブルグッド(馬頭琴)

美炎(馬頭琴)

則岡徹(ピアノ)

*ホームメイの予定あり



▶問合せ&予約：

ブルグッド：090-2655-1571

西郷美炎：090-7266-1571

莊魯迅氏特別講演会

「中国と私」

文化大革命の荒波にもまれながらも、文学、詩、音楽の世界にロマンを求め、現在、日中両国で活躍の莊魯迅氏が自らの激動と感動の半生を通じて中国の光と影の部分語る

2008.3.6(木) 13:00～15:45 (質疑45分を含む)

明治大学222アカデミーコモン9階308B号教室
J R 中央線・総武線御茶ノ水駅/水道橋寄り出口徒歩3分

参加会費 1000円 (当日会場で)

講師著書 ・「物語・唐の反骨三詩人」 集英社(2002)

・「漢詩・珠玉の五十首」 大修館(2003)

・「李白と杜甫 漂泊の生涯」 大修館(2007)

申込み&問合せ

Tel:090-5395-5444(今川宅)

TEL/FAX：:03-3754-0900(莊魯迅事務所)

Eメール：info@choukou.org

Gallery & Cafe **Kamal** (大石一馬 フォトギャラリー)

< **Kamal** のつどい(VI) >

2008年3月9日(日) pm 2:00～

於：ギャラリー **カマル**

町田駅バスターミナルより小山田桜台行(境川団地経由)乗車
上横町下車徒歩1分、またはJR古淵駅より徒歩20分
(詳細はカマルへ問合せください)

出演：藤原 敬子(ソプラノ)/藤原 章雄(テノール) 他

・花 すみれ

・"ジャスミンの二重唱"(オペラ「ラクメ」より)

・"恋とはどんなものかしら"(オペラ「フィガロの結婚」より)

・その他

*定員：25名 *飲み物付き 2000円

*予約：TEL/FAX 042-791-0148

ギャラリー・カマル

地図はこちら <http://kamal.exblog.jp/i10>



使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、使用済み古切手と書き損じの葉書を集めています。使用済み古切手も、沢山集まれば、1kg単位で現金化することができ支援金として使用されるとのことです。

小さくて軽い切手を1kg集めるには多くの方の協力が必要です。'わんりい'の会事務局も、古切手収集の窓口として協力しています。日本の切手、外国の切手など、周りを1cmほど残して切り取り、おついで折に'わんりい'の事務局にお届けくださるか、田井にお渡し下さい。

< 麻生外国人医療情報ヘルプライン >

～ 開設のお知らせ ～

川崎市麻生区との協同で、英語、スペイン語、中国語を話される、近隣の外国の方々役に立つ下記医療情報、

*医療機関 *日本の健康保険

*保健所の健康診断 *予防注射 などなど

を電話で無料提供いたします。

OPEN 2008年2月25日

開設日時 毎週月曜日及び金曜日(祝日休)

10:00～15:00

電話番号：044-951-6468